



代表質問 自民党こまつ 灰田 昌典(はいだまさのり) 議員

一括質問

北陸新幹線金沢以西の進捗状況と

今後の整備計画について

◆本市にとって最大の関心事は一日も早い新幹線小松開業の実現である

Q 平成27年度の用地測量、建物調査及び用地取得の現況は。

A 用地測量は全て完了、建物調査は宅地総件数約250件をほぼ完了し、工作物等の細部調査を建物補償費の精査と並行して行っている。用地取得率は、小松市は50%となっており、内訳は宅地が26%、農地が65%である。

Q 平成28年度の事業費と内訳は。

A 小松市の負担は2億6千万円。梯川橋梁及び園町―幸町間の用地・建物補償、駅周辺埋蔵文化財調査、また梯川橋梁、園町―幸町間高架橋、幸町―西園地高架橋の工事を予定している。

Q 事業の迅速化のため、市職員の派遣増員を図るべきと思うが。

A 県の方で、用地取得が終わった場所の担当者回すなど柔軟に対応している。

◆企業誘致と産業構造の多様化・高度化に
つなぐ

Q 正蓮寺エリアにおける次世代産業団地、2ヶ所目花坂町、3ヶ所目はどこを想定しているのか。

A 新幹線以外にも残土処理の要望があるので、それを踏まえ適正な場所を考えていきたい。また空港周辺の土地利用もあるので、小さなコ

ストで最大の利益を得られるよう作業を進めていく。

Q 税収増につながる企業誘致は大変重要である。バランスのとれた産業都市としてどのような業種の企業誘致を図るのか。

A その時代に応じたバランスがあると思っており、健康、医療、食といった分野を考えている。

◆「せせらぎの郷」リニューアルについて

Q 財源と中身について示せ。

A 国や各種団体から支援を受け、里山健康学校として、食育レストラン、体験交流館、人工芝グラウンドを整備し、また木質バイオマスボイラーを設置する予定である。

Q 小松市指定文化財「木造十二神将立像」の保管展示を図りたい。

A せせらぎの郷で展示し、鎌倉時代の技術力や歴史・文化に触れることで、木工製作技術を未来へつなげたい。

◆今後の木場潟公園について

Q 昨年5月17日、五月晴れのもと、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、大成功裏に終わった全国植樹祭の会場である木場潟公園について。

A スマイル木場潟2016を実施し、植樹祭メモリアルラインとしてトレッキングコース等を徐々に整備し、環境王国エリアを更に磨

っていく。

Q お野立所の利活用、東園地の整備計画は。

A お野立所は移設工事を行い、野外演劇や音楽会場として活用し、東園地は県が基本構想に着手する予定で、環境王国の中心エリアとして新しいアイデアを活かしていきたい。

◆(仮称)イオンモール小松沖のオープンに向けて

Q 北陸最大級の大型商業施設が来春オープンする。交通渋滞対策、幸八幡線、排水路と下流地域対策は。

A イオン側の案内看板や誘導員の配置に合わせ、市として車道の追加や信号サイクルの改良を予定している。幸八幡線は地元において主体的に話し合いを進めているところであり、地権者の同意が得られれば用地交渉に入りたい。

周辺の排水対策として、県の指導により雨水調整池が整備され、貯水能力の向上が図られる。今後とも指導を徹底しながら、市街地を流れる幹線排水路の流下能力向上に向けた整備を着実に進めていく。

◆東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み

Q 小松市の選手育成強化・事前合宿について市長の熱意を聞く。

A 中学生を中心にした科学トレーニングや指導者に対する食育や運動セミナーの積み重ねにより、全国で活躍する選手が増えている。

また、カヌーとトランポリンの事前合宿に手を挙げており、県と共同でパンフレットを作成し、大会等でPRしていく。



代表質問

自民クラブ

表

靖二(おもてやすじ) 議員

一括質問

ごみダイエット袋について

◆28年度の法人市民税について

Q 法人市民税は、前年対比で7億3千万円減額とされているが、景況感の見込み及び国保・介護保険会計等への繰り出しの見込みについても問う。

A 石油の値下がり等により、大手企業の新規需要が減り、法人市民税への影響が考えられるが、この機会をチャンスと捉え新しい部署を作り取り組んでいる企業や、オリンピックに向けフル操業しているという企業の話も聞くので、設備投資や定住促進等の安定的な投資をすることが大事だと思っている。

また、国保や介護保険は確実に増えていくと考えられるが「予防先進のまち」として、数年先を一つの目標として取り組んでいく。

◆ごみダイエット袋について

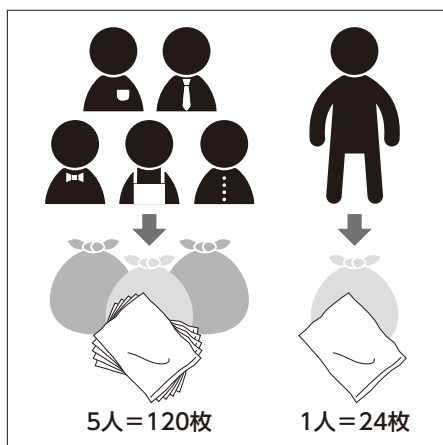
Q 市の環境審議会の答申に基づき、市指定ごみ袋を採用し、一人当たり年間24枚を無償配布し、不足分については、各自購入するものである。これにより可燃ごみ50%削減しようとするものである。本施策について説明を求める。

A 各自自治体がそれぞれ工夫している中で、小松市のやり方について環境審議会の専門部会の皆さんの意見をいただきながら考えた。市民が共通の意識を持ち、We enjoy eco:を合言葉に家族ぐるみでごみの減量化に取り組んでいただきたい。

家族構成等も含めいろいろなご意見をいただいております、どのような形がいいのか6月末までには町内会や議会に最終提案をし、10月から導入していきたい。

Q 削減に努力してごみ袋に余剰が生じた場合、町内単位で市が買い取ることはできないか問う。

A 他市でいろいろな取り組み事例があるが、小松市のやり方も一つであると考えており、小松市民あげて環境共生の社会をつくっていききたい。



1人当たり年間24枚配られる予定のごみダイエット袋

◆企業の本社機能移転について

Q 条例等の整備により本社機能を移転した場合、固定資産税の減免を図ろうとしているが、本社機能移転の見込みを問う。

A 小松空港という国際空港があり、これから新幹線も来る。日本の真ん中にあるという地理を生かし、どうアピールしていくかを念頭に置きながら制度設計を進めていく。

◆公共下水道条例の一部改正について

Q 下水道が供用開始された場合、法令上、接続が義務付けられている。正当な理由なく接続しない場合、住所等を公表する条例改正について考えを問う。

A 本市の公共下水道の接続率は、県内の平均と比べて低い現状であり、これまでも補助制度等を活用しながら職員による戸別訪問で接続促進を行っている。

今回、独自に条例で公表制度を設け、実効性のある下水道接続促進に努めたい。公表を行う場合の事務手続きについては、①接続の猶予②接続の特別指導③接続の催告の手続きを踏み、公表へ至る制度となっている。また施行日は、告知期間が重要となることから、平成30年4月1日となっている。

◆南部いきいきオアシスについて

Q 栗津診療所との連携について問う。

A 医師や看護師、技師と連携し、生活習慣病や認知症等の予防講座、運動療法や試食会などの予防事業を検討している。また特定健診で生活習慣の改善が必要な方に保健師を派遣し、行動目標を設定する等積極的に取り組む。

今後は、栗津診療所や市民病院本院と連携を密にし、南部地区の心と体の健康づくりを行う予防先進の拠点としていきたい。



代表質問

みどりの風

杉林

憲治(すぎばやしけんじ) 議員

一括質問

すべての予算は人口減少対策に通ず

◆ 確実な歳入確保の取り組み

Q 人口減少、少子高齢化の進展などを踏まえ、どのような工夫をして歳入を確保していくか。ふるさと納税、28年度からスタートする企業版ふるさと納税への対応は。

A 国や県の補助メニューを積極的に活用し、土地の売却等を行うことで歳入を確保していく。

また企業版ふるさと納税は、市外の企業からの寄附に対し税額控除の幅を広げる制度として国において審議中であり、企業にとってもプラスになるものである。大幅な増額となった個人からのふるさと納税に加え、企業から応援していただけるよう、地域再生計画を作成し有効な活用方法をPRしていきたい。

◆ 若者の定住・定着に向けて

Q 地方創生は地域力、市民力が問われている。若者の定住・定着を図るため、商工会議所や企業との連携が必要である。就職支援への取り組みについての決意は。

A 県外への進学が多いことから、地元へ進学し、就職する学生を増やすため、公立4年制大学の実現を目指す。また県外への進学者に向けて、正月やお盆の帰省時に、企業説明会や合同面接会を行い、地元企業の紹介を続けていきたい。国や県のさまざまな活動と相乗効

果を出しながらPRし、未来につなぐまちづくりをしていきたい。

◆ 観光資源活用と日本遺産認定

Q 北陸新幹線金沢開業は、予想を大きく上回る経済効果をもたらしたが、金沢・能登に比べて加賀地域は観光資源を生かし切っていない。本市は日本遺産の認定に向けて「こまつの石文化」を申請した。是非、実現を願っている。

A ものづくりのルーツとも言える石の文化を『珠玉と歩む物語』小松く時の流れの中で磨き上げた石の文化」として取りまとめ、日本遺産認定の申請を行った。本市の特色と価値を高める重要なテーマであり、認定の可否に関わらず市民の理解促進とオール小松での受け入れ体制を構築していく。

◆ 運動会の組体操について

Q タワーやピラミッドなど運動会の花形種目、組体操で骨折などの事故が後を絶たず、全面禁止する自治体が出てきた。本市の運動会の組体操の実態と考え方は。

A 組体操は、小松市内の小中学校合わせて35校中30校で実施しており、4件の骨折、その他打撲等で医療機関にかかっている。組体操には子ども達が協力しながら完成させ、達成感を得るといふ教育的意義も期待できる。十

分な安全確保により事故防止に努め、子ども達の成長を支える運動会を実現していきたい。

◆ 公営企業会計の健全化

Q 予防先進都市を目指す本市にとってその中心を担う市民病院は、4月から加賀市医療センターがオープンするなど外的要因によって経営を取り巻く環境は段々厳しくなってくる。今後の病院経営は。

A 小松市民病院は、平成20年度以降の黒字決算を継続し、投資をしながらも安定した健全な経営状況となっている。

加賀市医療センターには地理的に近い方が通院することも想定されるが、加賀市全体では、ベッド数が減少すると聞いており、影響は軽微なものと考えられる。当院は、南加賀の中核病院として、がん診療連携拠点病院、救急医療センターの運営など、加賀市の病院にない医療・看護体制をこれまで以上に推進し、患者さんのための医療を第一に提供していく。

◆ 性的少数者への対応

Q 自治体の裁量で可能な限り、申請書や証明書の性別記載欄を廃止したり、差別を禁じたり権利を守ろうとする動きが広がっている。

A 本市においては、年齢、性別や国籍及び障がいの有無に関わらず全ての人が安心して生活できるまちづくりを推進している。

まずは市職員への研修や市民への啓発を行い、正しい知識の普及と理解に努める。また申請書等への性別の記載については、必要性を精査し、市で判断できるものは削除していく方向で進めていく。



木下 裕介(きのした・ひろゆき)議員

一括質問

子どもの貧困を直視した取り組みを！

◆子どもの貧困対策について

Q 本市では経済的に困窮している家庭に学用品代などを補助する就学援助制度の利用率が増加している。対策の一つとして制服のリサイクル制度を市内全域に広げてはどうか。

A PTA活動や学校の取り組みとして、10校中8校の中学校で卒業生から制服を譲り受けるという制服のリユースが行われている。

今後物物を大切に使う環境及び道徳教育の視点を大事にし、さまざまな資源の有効活用について意識を高めていきたい。

◆補助金のあり方について

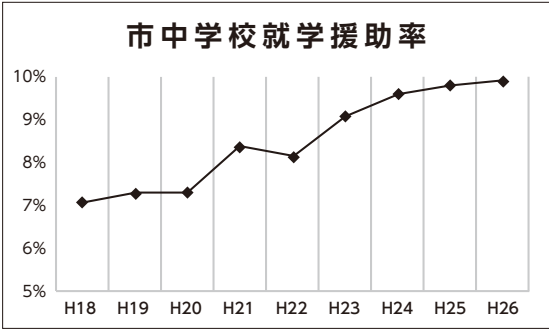
Q 当初予算では16億5400万円が計上されているが、補助金は税金であり、明確な使途、成果がわかるようにすべきである。公益性・有効性・公平性を担保するため交付する補助金に終期を定めるサンセット方式を導入してはどうか。

A 毎年、予算編成にあたり、補助金の必要性、有効性、市民ニーズ、経過年数を再検証し、ゼロから見直すこととしている。各部署においてもチェックシートを使い、必要性を6段階で評価し、予算要求している。今後とも市民に理解いただける透明性の高い仕組みづくりに努めていく。

◆被災地支援について

Q 改めて被災地への修学旅行を提案する。

A これまで複数の中学校が検討したが、移動時間や滞在地での活動内容、そして余震等の安全確保の点で実施を見送った経緯がある。修学旅行は一生の思い出となる大事な学びの機会であり、安全性や諸条件が整うことで実施する学校が出てくると思われる。



新田 寛之(にいた・ひろゆき)議員

一括質問

市営木曾町住宅について

◆高齢者宅での火災事故について

Q 2年連続して火災事故が起こった。本市としてはどのように受け止めているのか。

A 二度とあってはならないことだと思っており、今後は室内の整理整頓、消防用具の設置を強く指導し、再発防止に努めていきたい。

◆建て替え計画について

Q 昭和36年～39年にかけて建築された物件の建て替え計画について、進捗状況や手法を示せ。

A 現在、建て替え計画を取りまとめている。市営木曾町住宅のうち104戸を建て替える予定である。

建て替え事業の手法は、民間の資金と技術力等を活用したPFI的手法により集約・建設することにしており、現在の入居者状況や団地の空き室状況などを調査研究の上、今後、必要戸数を決定していく。

◆今後の対策について

Q 高齢者世帯への防火対策をどのように考えているか。

A 市営住宅においては、設置済みの住宅用火災警報器を連動型住

宅等火災警報器に更新するとともに、安全装置付きの火気使用器具の普及啓発に取り組んでいく。

また、市内の一人暮らしの高齢者宅への連動型住宅用火災警報器の設置も進めており、今後は寝室に加えて台所への設置、玄関への連動型補助警報器の設置に取り組み、早期発見、早期避難につなげていきたい。

Q 地域としてどう取り組むべきなのか。

A 木曾町では自主防災訓練やわかまち防犯隊、夜回り当番等模範的な活動が実施されている。

小松市が進めるやさしいまちづくりの推進、予防先進都市の実現には、協働・共創による取り組みが不可欠であり、自分たちのまちは自分たちで守るという意識が地域住民一人ひとりに浸透するようサポートしていく。

